

AGU NEWS 青山学院大学

Vol.
6

AGUニュース第6号
[2001年3~4月号]

青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111(代表)
URL <http://www.aoyama.ac.jp/agunews>



ベリー・ホール(法人本部)

特集 理工学部秋光研究室で高温超伝導体を発見
CAT CENTER FOR ADVANCED TECHNOLOGY 先端技術研究開発センター

**21世紀、
青学が変わる**

新キャンパス最新レポート
緑が丘グラウンド(仮称)着工へ
ガウチャー・メモリアル・ホール建設進む

TOPICS

卒業生メッセージ
AGUニュース創刊1周年

報告・お知らせ

新役職員紹介
青山学院大学教育ローン
誌上公開講座 Vol.6
—地球温暖化を考える—

INFORMATION

卒業後の連絡先一覧
首都圏父母懇談会
一般入学試験出願者数



特集 理工学部で高温超伝導体を発見

CAT

CENTER FOR ADVANCED TECHNOLOGY



21世紀冒頭、サイエンスの世界を一步前進させるニュースが青山学院大学理工学部から発信されました。「新しい高温超伝導体発見!」。秋光純教授や錢谷勇磁助手らの研究グループが、本学「先端技術研究開発センター(CAT)」で成し遂げたこの発見は、3月1日付の英国の科学誌「ネイチャー」に論文が発表され、それに先立つ2月24日に新聞やテレビで大きく報道。2月26日には文部科学省で緊急記者会見が開催されました。記者会見の席で半田正夫学長は「今回の発見が、国立大学ではなく、青山学院大学という私学でなされたことに、大きな喜びを感じています。また、2003年度より相模原市に文理融合型新キャンパスをスタートさせる本学にとって幸先が良い出来事」と、秋光教授らのグループへの惜しみない賛辞を贈りました。

と、秋光教授らのグループへの惜しみない賛辞を贈りました。今回の特集はこの大発見を取り上げます。

今回の特集はこの大収見を取り上げます。



世界最高の臨界温度を持つ金属間化合物超伝導体

MgB₂(二ホウ化マグネシウム)を物理学科秋光研究室で世紀的発見



理工学部物理学科 秋光 純 教授

「超伝導」とは何だろう？ そして「高温超伝導」とは？

物質に電気を流す際、必ず電気抵抗が生じます。ところが物質の温度を下げていくと、ある温度（臨界温度）で電気抵抗が急に落ち、それ以下の温度で抵抗が無くなる現象が見られる、この現象を「超電導」と呼んでいます。物理学の世界では「超伝導」と表記されることが多いのですが、まったく同じ意味です。

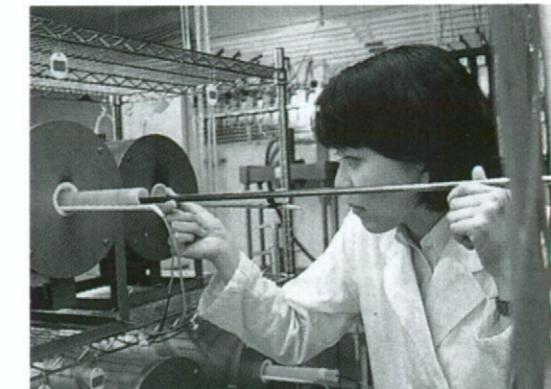
1911年にオランダの物理学者カマリング・オネスによって水銀の超伝導(臨界温度は絶対温度4.2K)が発見され、その後すぐ、鉛など、磁性を示さない多くの金属や合金にこの現象が生じることが確認されてきました。電気抵抗がないわけですから、超伝導体で作ったワイヤをリングにして、そこに電気を流せば永久に電気は流れ続けます。また、超伝導体を巻いて電磁石にすれば、地磁気の数十万倍も強い磁場を作ることができます。

しかし、長らくこうした超伝導現象のメカニズムについてはなかなか解明が進まず、ようやく1957年にアメリカのバーディーン、クーパーシュリファーによる「BCS理論」によって明らかにされました。

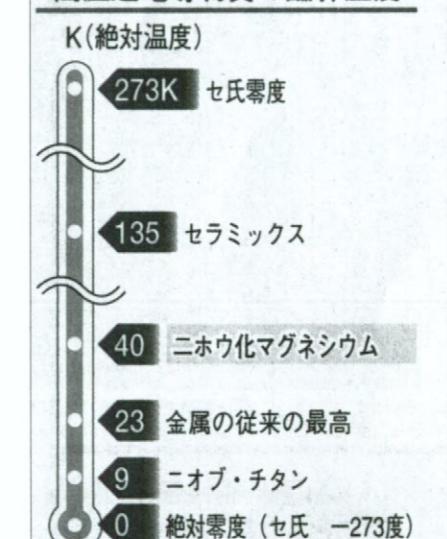
1986年以降、絶対温度100K前後の高温で超伝導になる銅酸化物系セラミックの超伝



先端技術研究開発センター



高温超電導物質の臨界温度



東京新聞2月24日(土)付(夕刊)



伝導体が実現できれば
学術面だけではなく、
応用面でも大きな意味
がある……発見された
「二ホウ化マグネシウム」
は地球上に無尽蔵に
ある物質で、試薬とし
ても市販されているこ
とから、実用化に当た
ってはコスト面でも有
利といえるでしょう。

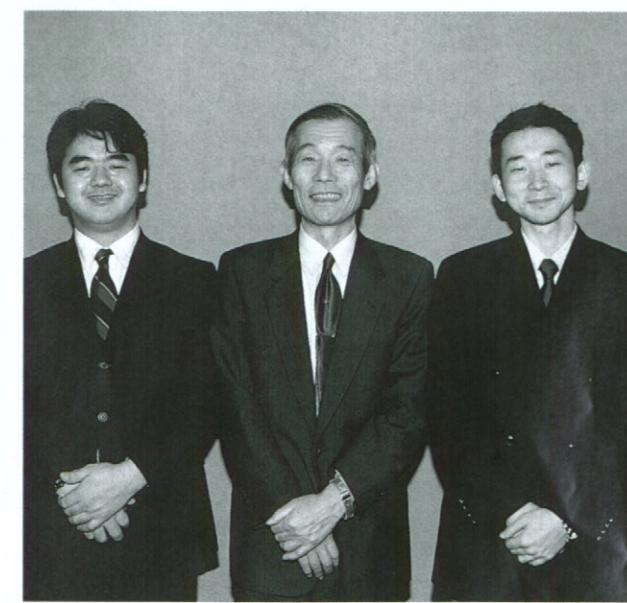



 日本経済新聞
 2月24日(土)付(夕刊)


每日新聞2月25日(日)付(朝刊)



ネイチャー 3月1日号(P.iii) (P.23) (P.64) を掲載



左から錢谷勇磁助手、秋光純教授、永松純君(物理学科4年)

今回の発見は、こうした低成本と加工性の良さというメリットから、高温超伝導体の産業応用を一気に加速させることになるかもしれません。すでに、アメリカの研究者が「二ホウ化マグネシウム」でワイヤを試作するなど、新しい超伝導体の性能を確認する動きも始まっています。

学術面では、従来の理論で30Kが限界とされてきた金属系の超伝導体の“常識”が覆ることになりました。

文部科学省での記者会見の席、秋光教授は「これまでの超伝導体はBCS理論によってそのメカニズムが説明されてきましたが、この物質はこれまでとは異なる全く新しいメカニズムによるものだらうと予想されます。今後は、二ホウ化マグネシウムが超伝導になるメカニズムを探求していきたい」と語り、さらなる高温化につながる超伝導のメカニズム解明への意欲を表明しました。

「二ホウ化マグネシウム」はどのように発見されたのか

秋光教授らの研究は、理工学部に付設された「先端技術研究開発センター(CAT)」で行われました。CATは、文部省(現文部科学省)の1996年度「私立大学ハイテク・リサーチ・センター整備事業」に選定されています。これは科学技術の発展における私立大学の重要性の認識から創設された事業で、選定された研究プロジェクトに対してハードとソフトの面から国が支援を行うというもの。CATでは世界的



記者会見冒頭、挨拶に立った半田学長

規模で深刻化しているエネルギー問題に応えるために、「エネルギー高効率化のための新機能性材料の開発および評価」をメインテーマとする5つの研究が推進されています。秋光教授は、そのうち「電力貯蔵・移送材料としての超伝導新素材の開発および評価」を担当。昨年より、マグネシウムとホウ素の化合物に、チタンを加えるとわずかに超伝導性の傾向が見られる事実をつかんでいました。実験は秋光教授の指導のもと、卒業研究で新しい超伝導物質の開発を手掛けている理工学部物理学科4年生の永松純君によって進められ、昨年10月ついにCATの実験室で「二ホウ化マグネシウム」が発見されました。そして、今年1月に東北大学金属材料研究所で開催された講演で初めてこの発見を発表。その情報は電子メールでたちまち世界に伝えられ、各国の研究者から問い合わせが殺到したのです。

永松君は「週3日はバトします」というごくふつうの学部生。記者会見後に話を聞くと「な



文部科学省の記者会見でOHPを使いながら「二ホウ化マグネシウム」の説明を行う秋光教授

かなか思うような結果を得られず、マグネシウムを多めにチタンを抜いてみて「これで最後。ダメだったら諦めよう」と思いながら行った実験だったのですが……こんな大それたことになって、うれしい反面、少々とまどっています」と押し寄せる報道関係者に当惑気味。「物理学の発見というのは、往々にして偶然の積み重ねの上に生まれるものです。そして、その偶然を手元に引き寄せるためには、その時々で自分のやるべきことをしっかりやる以外ありません。今回の発見は、僕にそうしたことの大切

さを身に染みて感じさせてくれました」。

また、4月からの大学院進学に向けた抱負を聞くと、「人々の生活に役立つ超伝導技術を考えていきたい」と力強く語り、秋光教授のもとでの本格的な研究者生活に意欲を見せていました。

一方、教え子の快挙に目を細める秋光教授は、「超伝導性に関わりのある物質であるチタンを抜いてしまおうという発想は、我々にはできなかった。いや、本当にラッキーでした。永松君のおかげです」と感慨深そうな笑顔を見せま



記者会見には多くの報道陣が詰めかけた

した。化学実験に使うありふれた試薬が、今回の大発見の主役となつことに、未だに驚きを隠せない研究者も多いようです。

現在、秋光教授は3月にアメリカの物理学が緊急開催することを決定した「二ホウ化マグネシウム」をテーマとした研究発表会に出席するなど、多忙な日々を送っています。

やや停滞していた超伝導研究を再び活性化させることになった今回の大発見。青山学院大学理工学部は、21世紀の超伝導研究の拠点として、世界中から注目を浴びることになりそうです。



記者会見後も記者の取材を受ける秋光教授

CAT

CENTER FOR ADVANCED TECHNOLOGY

研究施設紹介

日本の科学技術をリードする研究を推進

文部省(現文部科学省)の「私立大学ハイテク・リサーチ・センター整備事業」の選定を受けて誕生した先端技術研究開発センター。地上4階建ての建物は第1から第10までの実験研究室とクリーンルームで構成され、最新の実験装置・設備が設置されています。





新キャンパス最新レポート

これまでにも「AGU NEWS」でお知らせしているとおり、青山学院大学は昨年3月に新日本製鐵株式会社から同社相模原研究所跡地（神奈川県相模原市淵野辺）を購入しました。ここに新キャンパスを開学し、本学は青山キャンパスとともに2つのキャンパスに集約されることになります。2003年4月の相模原キャンパス（仮称）開学に向け、その利用方法や具体的なプラン策定のために「新校地基本計画委員会」を中心とするいくつかの検討グループが組織され、21世紀にふさわしい新キャンパス構築に向けて着々と計画が進められています。そこで今号では、新校地基本計画委員会の副委員長をつとめる西澤宗英副学長に、新キャンパスの構築プランや進捗状況についてお話をうかがいました。

副学長 西澤宗英



文理融合型

新キャンパス構築にむけて

新しいキャンパス用地は、東京ドームのグラウンド面積のおよそ12.3個分、敷地面積16万平方メートル（約4万8,800坪）を有する広大な土地です。ここでは、これまで厚木キャンパスで学んできた人文・社会科学系学部の1・2年次生と、理工学部の大学院を含む全学生が学ぶことになります。複数のキャンパスをもつ本学では、世田谷キャンパスのように1キャンパスで学部学科・大学院教育を完結させる「縦割り型」と、1・2年生は厚木、3・4年生は青山という学年別置、つまり「横割り型」のキャンパス構成を取り入れてきましたが、相模原の広大な校地を取得したことにより、「縦割り」「横割り」のそれぞれのメリットを生かす複合的なキャンパスが誕生することになります。また、人文・社会科学系と理工学系の学生が同じ敷地内でも学ぶことにより、学問の領域を越えた相互の学生交流の活発化、さらには知的好奇心の向上の実現を目指していきます。

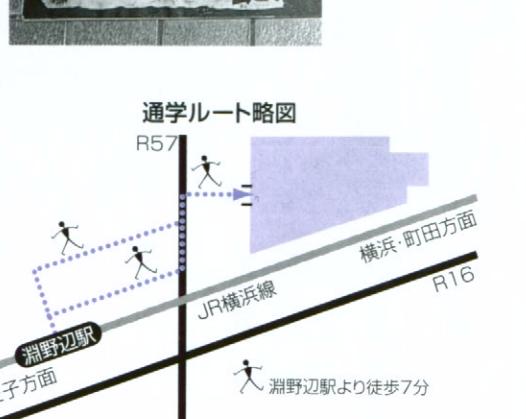
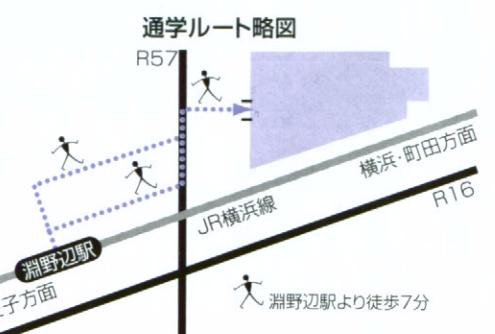
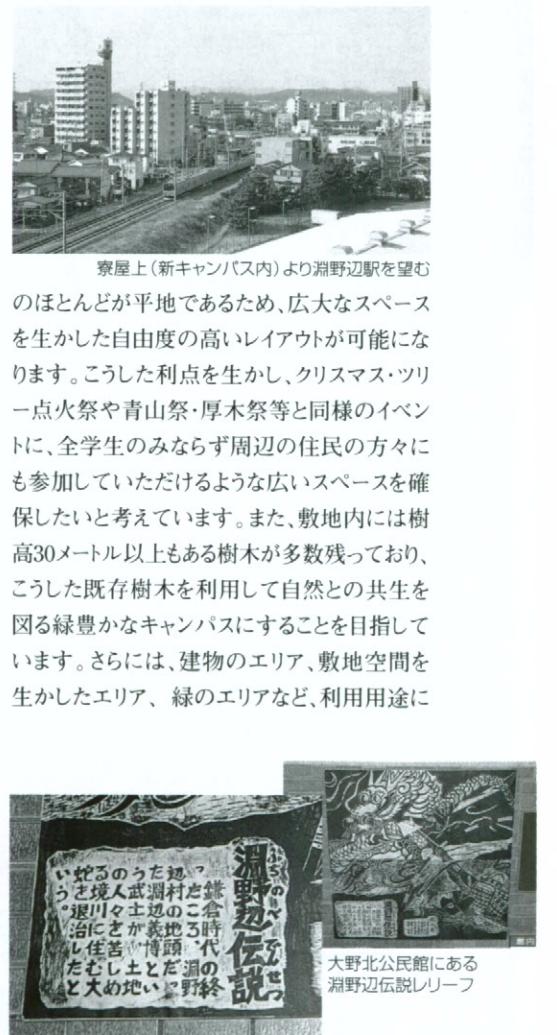
新キャンパスの特徴は？

新キャンパス構築プランは、どのような形で進められていますか？

昨年4月、半田学長を委員長に、大学執行部、各学部長、学部選出教員、大学事務局代表者などを構成メンバーとする「新校地基本計



相模原キャンパス（仮称）上空（2001年1月現在）



このイメージ図は検討段階のものであり、変更になる場合があります。

応じたゾーニングを施し、それらを理想的な形で組み合わせることにより、移動の効率化やキャンパス内の快適性の向上を図っていきます。

具体的には、どのような施設が予定されていますか？

キャンパスのシンボルとなる礼拝堂と図書館・情報系・研究室を合わせた棟は独立した建物として建設する予定です。教室棟は、できるだけ少人数クラスで授業をしたいという方針から、小・中規模のものを中心に考えています。食堂や部室を中心とした厚生棟も建てられます。また、単に教室と食堂の行き来だけでなく、広場、インターネットカフェなど、空き時間や授業後にくつろげる空間、学生同士・学生と教員が交流しやすい環境づくりも積極的に進め、“学生が少しでも長くいたいと思うキャンパス”を目指します。

理工学部の移転で大きく変わることはありますか？

一つの完成した「縦割り型」の学部が新キ

ャンパスにできることは非常にインパクトがあると思います。世田谷キャンパスは、ほぼ「縦割り型」で理工学部単独のキャンパスでしたが、今度は人文・社会科学系学部と融合したキャンパスになります。礼拝堂や図書館、食堂や購買会のような共用施設が充実し、より使いやすくなるでしょう。

今後、理工学部の学生は、新キャンパスで大学の4年間を過ごすことになるわけですから、これまで青山キャンパスだけで行っていた入学試験を、新キャンパスで実施することも考えられます。

地域住民の方々の熱心なバックアップも大きな支えになりますね。

相模原市は中小企業・新産業振興に非常に熱心で、また理工学系の学部誘致に積極的だったこともあり、理工学部を含めた本学の移転を歓迎してくださっているという感触を得ています。

本学でも、住民の方々に愛されるキャンパス

づくりを目指し、昨年秋と12月の計2回、周辺の各自治会長に新校地購入の経緯や具体的なプランなどの説明をさせていただきました。また、これとは別に本学の事務職員が、近隣にお住まいの方を訪問し、個別にご挨拶もさせていただいている。将来的には、公開講座の開催やグラウンドの開放、また同市が運営する「さがみはら産業創造センター」への本学の研究成果の提供などを通じて、地域に開かれたキャンパスづくりを進めたいと考えています。



2003年4月、青山学院大学は大きく変わります。学ぶ意欲をかきたてる未来志向のキャンパス、知的好奇心を満足させるカリキュラム編成……単に学部や学生が移るだけでなく、青山・厚木・世田谷キャンパスとは異なるまったく新しいキャンパスを学生とともに創造していきたいと思っております。新しいことに取り組みたいという意欲あふれる多くの若者の入学を期待しています。

開学までのスケジュール（予定）

2000.3	新キャンパス校地購入
4	「新校地基本計画委員会」発足
7	新キャンパス利用方針発表
9	「実施計画委員会」発足
2001.1	基本計画完成（月末～）
2	実施設計スタート
7	グランドデザイン決定 着工 キャンパス名称決定・発表

2003.1 既存キャンパスからの移転開始
2003.4 開学

※開学までのスケジュールは、変更になる場合があります。



このイメージ図は検討段階のものであり、変更になる場合があります。

新キャンパスクロスデザインを検討中

特集 緑が丘グラウンド(仮称)着工へ……



武藤元昭(体育会会长)

綱島総合グラウンドの売却に伴い、本学は昨年6月に日本エヌ・シー・アール株式会社ランニング・センター跡地を購入しました。2003年に開学する相模原キャンパス(仮称)からおよそ3kmの距離にあるこの用地は、大学グラウンドの一部として活用されることになりました。この緑が丘グラウンド(仮称)の設備計画や利用方法については、工事施工に携わる新日本製鐵株式会社の方々と本学体育会会长、学生部長、グラウンドの使用に関わる体育会各部長、関連事務部長等を構成メンバーとする「緑が丘グラウンド建設計画作業部会」を中心話し合いが進められ、今年1月の最終確認をもって建設計画が確定。2001年7月末の完成に向けて、目下工事が着々と進められています。

各部の意向に添った形で、施設設備を検討

綱島総合グラウンドを活動拠点としていた体育会は、硬式野球・サッカー・ラグビー・アメリカンフットボール・硬式テニス・ソフトテニス・馬術・陸上部の合計8団体。「緑が丘グラウンド建設計画作業部会」では、これらグラウンドに関わる各部の部長の意見や要望を積極的に取り入れ、その希望に沿って検討を行う基本の流れがありました。新しいグラウンドは、クラブハウス棟にこれまでなかった設備の補完、コンディションが劣悪だったグラウンドの土の改良、公式の規格に則ったコート・グラウンド設置など、さまざまな意見・要望を可能な限り反映した理想的な施設になると自信を深めているところです。

コンセプトは「近隣住民との融和」

今回の設備計画は、すでに形成された住宅地の中に新たにグラウンドを設けることになります。そのため近隣の方々に対する配慮を最大かつ慎重に施すことが不可欠であるため、本グラウンド設置の基本コンセプトには「近隣

住民との融和」を第一に掲げ、以下の4点についての特別な工夫を行いました。

また新日本製鐵株式会社の方々と本学の事務職員が、近隣住民の方々に対して戸別にご挨拶にうかがい、新キャンパス建設に対する了承も頂戴しています。

①砂塵の配慮

綱島総合グラウンドは、乾燥した赤土と砂埃の周囲への飛散の問題が最大のネックでした。この問題を解決するために、ラグビー場には天然芝を使用。またサッカー・アメリカンフットボール場はクレイ舗装を施し、さらに使用する土には砂塵化を抑えた安全性の高い素材を採用しました。この土の選定には、他大学のグラウンドを参考にさせていただきながら、さまざまなサンプルを取り寄せ、新グラウンドに最適な土を慎重に選びました。

②ナイター設備の廃止

周囲が住宅地という点を考慮して、新グラウンドにはナイター設備を設けていません。夜間照明は、用具の後片づけに最低限必要な

明るさにとどめ、また深夜におよぶ練習・試合もできるだけ自粛するような環境づくりを整えて参ります。

③騒音・飛球を防ぐフェンスを採用

グラウンドの周囲には防球フェンスを巡らせ、近隣住宅への騒音・飛球を抑える工夫を施しています。

④既存樹木を温存

敷地内に生育していた大きな櫻とメタセコイヤの樹木をそのまま残しました。これは環境保護の観点から、また近隣住民の方々に永年親しまれてきた樹木を温存すべきとの配慮によるもの。3本の既存樹木はクラブハウス棟の北側に位置し、完成の折には新グラウンドのシンボル的存在になることでしょう。

綱島からの撤退、そして移転……

すでにラグビー部とサッカー・アメリカンフットボール部は、昨年の12月をもって綱島総合

鍵入式執り行われる



鍵入れを行う半田学長

1月19日(金)、大学グラウンド用地の一部として購入した緑が丘グラウンド(仮称)建設予定地において、建設工事鍵入式が執り行われました。当日は、羽坂理事長、深町院長、半田学長、武藤体育会会长らとともに、小川相模原市長も参列されました。新グラウンドの概要は、ラグビーグラウンド・サッカーグラウンド・アメリカンフットボールグラウンド・硬式テニスコート・ソフトテニスコート等のスポーツ施設とクラブハウス等の大学施設で、敷地面積は46,087平方メートルとなります。予定期は、2001年1月末日~7月31日。



鍵入式後の懇談風景

クラブハウス
完成予想図



グラウンド全景
完成予想図



グラウンド上空(写真中央)

緑が丘グラウンド(仮称)概要

〈敷地面積〉46,087m² (13,941坪)

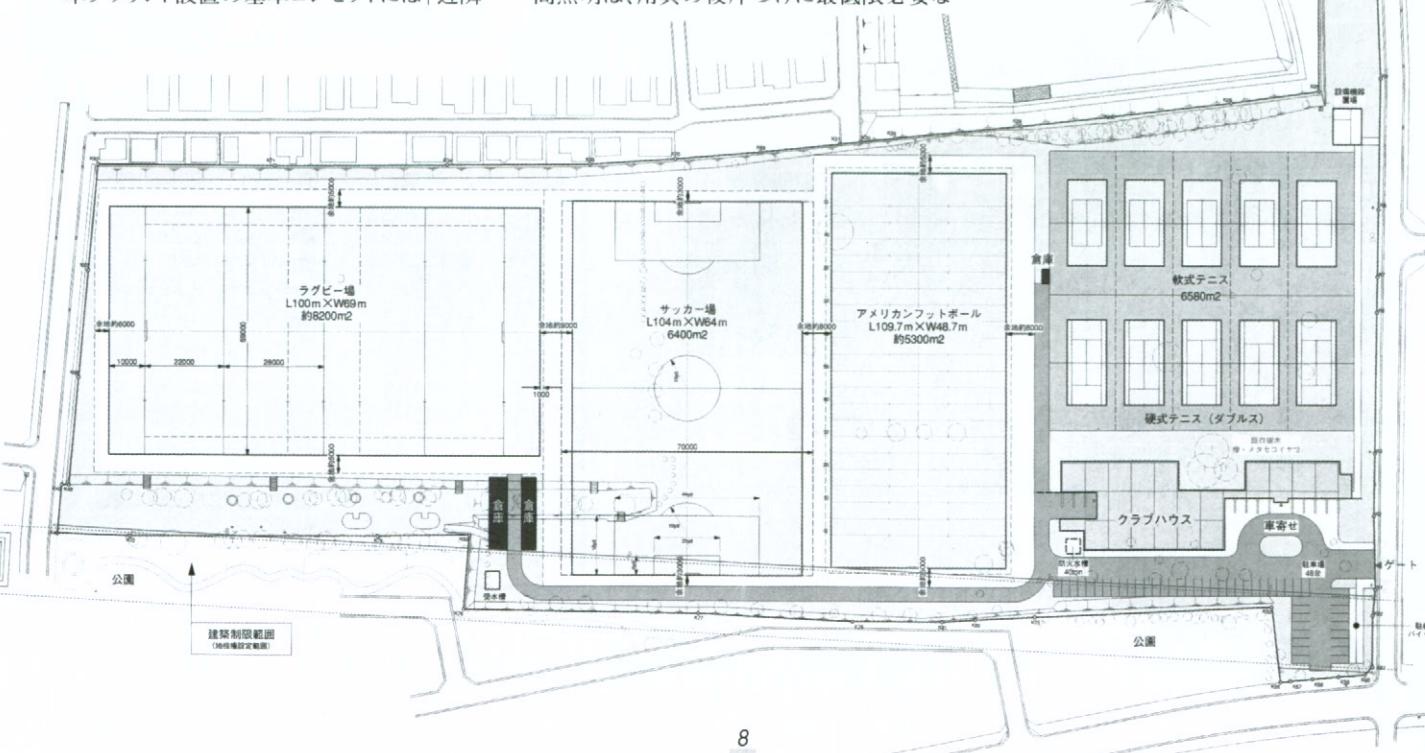
〈グラウンド〉

- ラグビーグラウンド: 天然芝
- サッカーグラウンド: クレイ舗装 (砂塵化抑制仕様)
- アメリカンフットボールグラウンド: クレイ舗装 (砂塵化抑制仕様)
- 硬式テニスコート: ハードコート
- ソフトテニスコート: 砂入り人工芝

〈建築建物〉

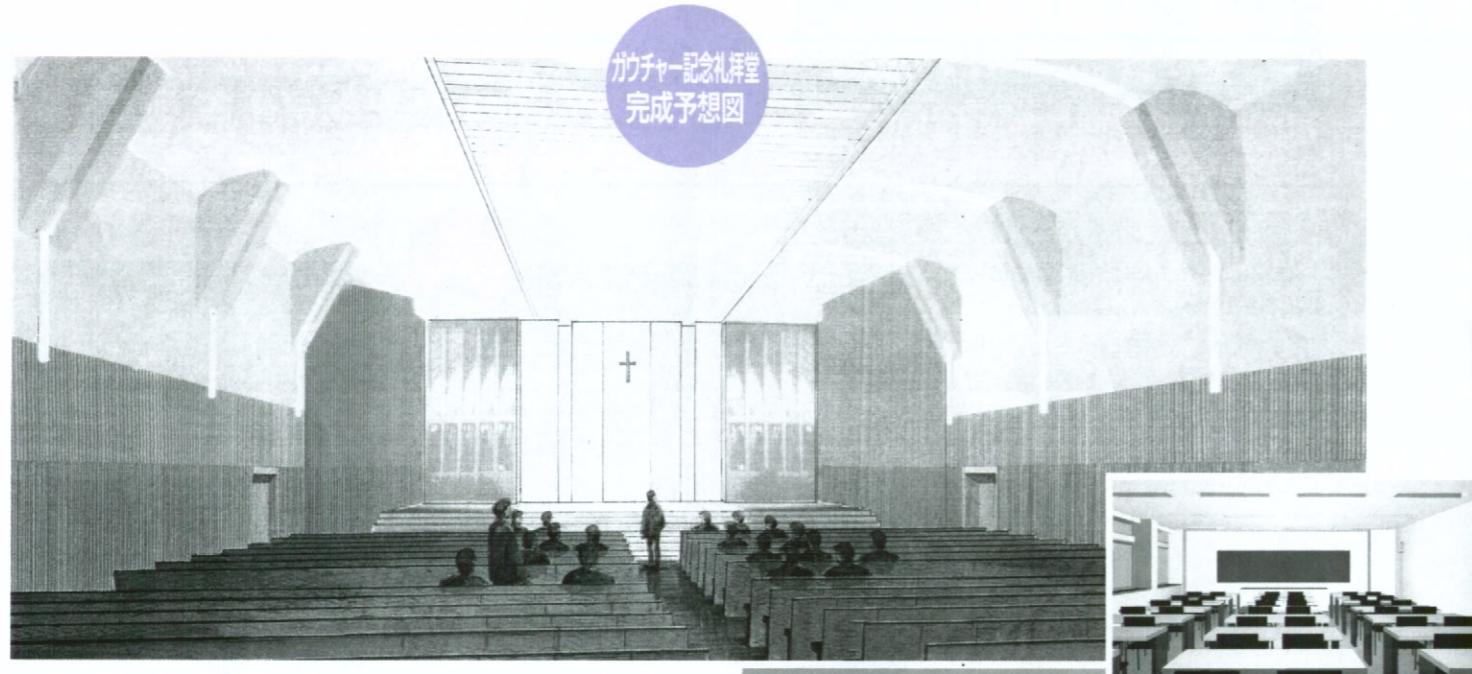
- クラブハウス
(トレーニングルーム、ストレッチルーム、応急処置室、多目的室、男女ロッカー・シャワー室、洗濯乾燥室、男女部室、事務室管理人室)
- グラウンド・テニス倉庫
- 駐車場(64台収容)
- 駐輪場(36台収容)

〈完成予定〉2001年7月31日

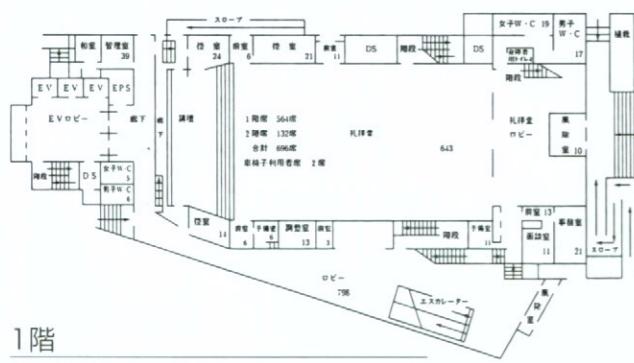


特集 ガウチャー・メモリアル・ホール建設進む

青山学院大学開設50周年記念事業の一環として、青山キャンパス13号館と大学礼拝堂の跡地に建設中の新校舎「ガウチャー・メモリアル・ホール」。2001年8月竣工に向けて、現在、急ピッチで工事が進められています。完成時には地上13階・地下1階（高さ約60m）になり、1・2階にはパイプオルガンを備えた吹き抜けの「ガウチャー記念礼拝堂」が設置される予定です。新キャンパスに先駆け、新しいシンボルタワーが青山キャンパスに誕生します。



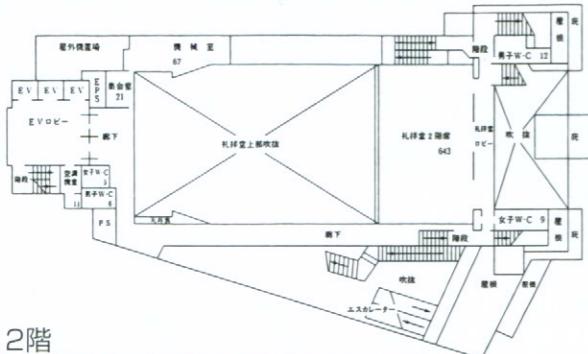
ガウチャー記念礼拝堂
完成予想図



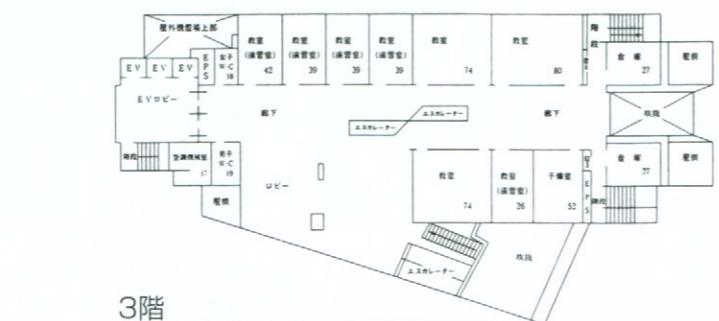
1階



上:小教室イメージ
中:1階～6階はエスカレーターで
移動できる
下:フロアイメージ



2階



3階

青山学院創設の功労者であるジョン・F・ガウチャー博士の名を冠したガウチャー・メモリアル・ホール。その1・2階部分を占めるのが約700名の収容能力をもつ「ガウチャー記念礼拝堂」です。礼拝をはじめ、聖歌隊やハンドベル・クワイアのコンサート、各種の大学行事に利用される予定になっています。なお、礼拝堂に設置されるマティス社製パイプオルガン（39ストップ・3段手鍵盤とペダル鍵盤）は、2002年2月より組み立てが始まり、同年6月には完成の予定です。

このほか、建物の3・4階には教室・演習室など、5・6階にはLL教室・AVスタジオ、7～13階には文学部の英米文・フランス文・史学科および法学科教員研究室の他、全学共通科目講義準備室などが設置される予定になっています。

※ジョン・F・ガウチャー博士については20Pをご覧ください。



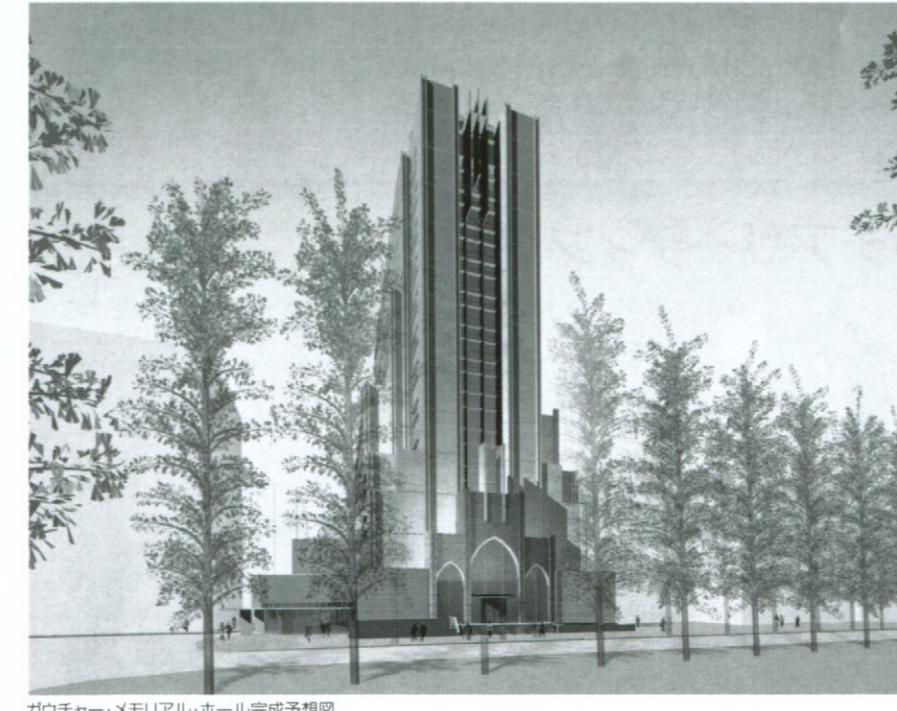
5号館から見た建設風景



ロータリーから見た建設風景



青山キャンパス全景（写真中央が建設中のガウチャー・メモリアル・ホール）



新校舎建設計画概要

建物の名称

ガウチャー・メモリアル・ホール

構造

鉄骨鉄筋コンクリート

階数

地上13階地下1階（高さ59.55m）

工期

1999年5月～2001年8月（予定）

施設概要

- 1階 礼拝堂・学生ホール
- 2階 礼拝堂2階席と1階の吹き抜け
- 3・4階 教室（主として演習室等の小教室）
- 5・6階 LL教室・AVスタジオ
- 7～13階 研究室等

その他

- 1～6階に学生用エスカレーター
- 地下～13階にエレベーター3機設置

課外活動において育んだ青学の4年間を振り返る

文化連合会本部 | 佐藤 謙 経営学部経営学科



①文化連合会の所属団体を統括し、各部会・部員の活動を支援しています。具体的には、大学施設利用の際の仲介・管理、予算の交渉と配分、部会間の諸問題解決、施設拡張運動の推進、年2回の総会の運営ほか、新入生歓迎実行委員会のサポートも行っています。②課外活動のためよりよい環境づくりに向けて、新キャンパス（相模原）の施設拡充運動に取り組んだこと。大学から委託されたのではなく、自主的な取り組みとして強く印象に残っています。③青山祭や課外活動とともに苦労し、感動を分け合った友人たち。④管理会計のゼミを中心に、企業について学び、未だ道半ばですが、現代の企業経営の一端を理解できたと思います。⑤大学で学んだことを生かし、社会人として確実に成長していきたいと思っています。⑥大学生活は鐘と同じで、大きく打てば大きく響き、小さく打てば小さく響きます。すべては本人のやる気と行動次第です。⑦青山学院ならではのキリスト教精神と建学理念を守り、育んでいってください。



ハンドベルクワイア | 藤堂 恒大 法学部私法学科



①学内での礼拝奉仕、地元教会での日曜の演奏奉仕が活動の中心。このほか、夏休みの演奏旅行で岩手の教会を回り、12月恒例のクリスマスチャペルコンサートで1000人以上の観客を前に演奏。98年にはハンドベル世界大会にも出演しました。②クリスマスチャペルコンサート。4年生4名で「アヴェ・マリア」を演奏した時には言葉にならないほど感動しました。③キリスト教に初めて触れ、ハンドベルを通して奉仕の精神を学びました。ともに支え合い、助け合った仲間は一生の財産です。④ゼミで憲法を専攻し、政教分離原則をテーマに卒論に取り組みました。これらの学習・研究を通して人権の尊さを知り、論理的な思考力を養うことができました。⑤青山学院大学で得たこと、ハンドベルを通して学んだことを思い出し、立派な社会人として頑張っていきたいと思います。⑥卒業を前にして4年間の短さを改めて実感しています。皆さんも時間を大切に、かけがえのない学生生活を過ごしてください。⑦一日も早く法科大学院を実現させ、司法の場で活躍する人材を数多く育ててほしいと願っています。

吹奏楽バトントワリング部 | 三浦 麻奈 文学部史学科



①定期演奏会、アンサンブルコンサートの開催をはじめ、東京都大学吹奏楽連盟の合同演奏会や学校行事（入学式、野球応援、東北学院大学との交流、オープンキャンパス）への参加、各地でのパレードや依頼演奏・演技など。また、コンクールでは16年連続で都大会進出を果たしました。②トランペットの練習の成果を発揮できたステージ。5月の青空の下で銀座通りをパレードした時の爽快感も忘れられません。③部活動や学科、ゼミで知り合ったたくさんの友だち。私の一生の財産です。④よき先生に巡り合い、ご指導していただいたおかげで、関心を持っていたイギリスの歴史・文化を、一つの学問の枠にとらわれることなく自由に学ぶことができました。⑤海外を旅し、異文化を楽しむなど、仕事以外の時間も大切にしたいと思っています。⑥やりたいことは躊躇せず、とにかくチャレンジあるのみ。私もたくさんの“やりたいこと”と“やるべきこと”に無我夢中で取り組んだ4年間でした。⑦卒業後も興味あるテーマに取り組めるような受け皿を作ってほしいです。



チアリーディング同好会 | 大崎 美和 経営学部経営学科



①全日本選抜選手権、関東大会、JAPAN CUP日本選手権大会、全日本学生選手権などに出場。平成12年度には、JAPAN CUPで57チーム中9位に入るなど、全国でも常に上位の成績をキープしています。このほか秋季東都リーグ戦での野球応援や、青山祭でのデモンストレーションなども行っています。②1年次から4年次までのメンバー全員で行う青山祭での演技は、チアリーディングの存在を学内にアピールできる数少ない機会。観客の盛り上がりがダイレクトに伝わり、大会とはまったく違った楽しさがあります。③チアリーディングの活動を通して、ひとつの目標に向かって一致協力して頑張ることの楽しさ、大変さを学びました。④経営学的なものの見方、考え方を身につけることができました。⑤自分の能力に見切りをつけず、何ごとも意欲的にチャレンジしていくつもりです。⑥大学では自分から動かなければ得るものに限りがあります。積極的に行動し、自分の本当に好きなことを見つけてください。⑦新しいものを取り入れつつ、古き良き伝統を大切に受け継いでいってほしいと思います。



卒業シーズン。21世紀初の“卒業”を迎える4年生たち…。今回は、「課外活動」にスポットをあて、充実した4年間を過ごした学生の皆さんからメッセージをいただきました。

新聞編集委員会 | 木村 彩子 法学部公法学科



①年10回発行の『青山学院大学新聞』の編集・発行に携わりました。編集長を務めた2年次冬からの1年間は、土・日も休めない状態。その合間に縫って硬式野球部の取材のために神宮球場に通いつめ、試合のたびに号外を刷り、大学日本一になった時には野球班3人だけで特別号外も発行しました。②硬式野球部の取材です。編集長としてとても多忙な時期でしたが、試合観戦、写真撮影、インタビュー、原稿執筆など、すべてが楽しい思い出です。③友人や取材でお世話になった学生、教職員の方々など、いろんな人と話ができるました。④勉強したと胸を張るには、ほど遠い学生生活でしたが、ただひとつ、授業には可能な限り出席するよう心がけました。⑤新聞社に就職が内定しています。最初の数年間は記者として研鑽を積み、人間としても「大人」になることが目標。その上で、希望する部署で、好きな分野の取材記事を書かせてもらおうになりたいです。⑥学生時代にしかできない経験をして、自分のキャリアにしてください。他人に評価されなくても絶対に自分のためになるはずです。⑦いつの時代でもみんなに期待される存在であってほしいし、卒業生として誇れる大学であり続けてほしいと思います。



体育会学生本部 | 長谷川 博樹 経済学部経済学科



①年に一度の東北学院大学との総合定期戦を体育会学生本部長として開催・運営しました。昨年の第51回大会では本学が見事総合優勝し、前回の雪辱を果たすことができました。②多くの先生方、先輩方の温かいご指導の一つひとつが一番の思い出です。体育会会长の武藤先生、学友会の酒井先生、空手道部の石畠先生と鈴木先生、三浦OB会長、そして学生部の方々……感謝の気持ち一杯です。③多くの先生や友人に支えられ、また、目標に向かって自分自身を奮い立たせることで、心身ともに大きく成長できました。④経済史、特に資本主義社会の成立を歴史的に考察するために、平出先生のゼミで主にイギリス産業革命について学びました。多くの著作にふれ、あらゆる時代・地域の経済社会について深く考えさせられました。⑤4年間で培った精神力と探究心を生かし、妥協することなく一日も真剣勝負で過ごしていきたいと思っています。⑥勉強に部活動に励み、心身を鍛え、豊かな価値観を養ってください。皆さんの成長を体育会の一先輩として心より応援しています。⑦教職員、学生がそれぞれの立場から一体となって協力し合うことで、総合大学としてバランスよく発展していくことを望みます。



した。③多くの人の出会い。深町院長をはじめとする教職員の方々、応援団や他部会、クラス、ゼミなどの先輩・同期・後輩……お金では買えない財産です。④勉強することで成績が上がり、それを励みにまた勉強に取り組むなかで、学ぶ姿勢が身につきました。また、立石ゼミの幹事として、ゼミナールに貢献しました。⑤青山学院の卒業生として、スクールモットーである「地の塩、世の光」となるよう日々精進していく所存です。⑥応援団に入団して充実した日々を送りましょう。就職にも抜群に有利です。⑦課外活動などの実績を社会に向けて積極的にアピールし、学院の名を高めてほしいです。



Forever Friends



いつの日にかまた……

TOPICS

AGUニュース創刊1周年



Weekly AOYAMAで綴
青山学院大学この1年……

4月

- 経済学部・経済学会講演会開催
- 2000年度対東北学院大学総合定期戦
- 青山学院大学<刊行物>のこ案内
- 文学部異キャンパス履修がスタート
- 「介護等体験」オリエンテーション
- 第33回オルガン演奏会開催
- く江戸参府2000>開催
- 「科学史学校2000」開催
- 「AOYAMA Media Lab(通称AML)」プロジェクト成果報告会開催
- ペリソニオーナ国際ユース大会メンバーに胸章嘉則くんが選出される
- 入学式開催
- 学生相談センター所長に石井教授を選出
- 青山キャンパス公開講座申込受付を開始
- 第1回バーチャル・ユニバーシティ研究フォーラム開催
- AMLプロジェクト研究成績報告会開催
- 東京オリンピック開幕
- 理工学部新学科がスタート
- 法学院学科改組を申請
- 国際政治経済学部員変更認可を申請
- 法学部長に山崎敏彦教授、国際政治経済学部長に高森寛教授を選任
- 文学部長、理工学部長再任
- 図書館長に石崎晴巳教授、総合研究所長に渡邊昭夫教授が就任
- 学生部長、国際交流センター所長、外国语ラボラトリーソ長再任
- 世田谷キャンパス公開講座申込受付を開始
- 第18代日本さくらの女王に経営学科3年安田薫さんが選出される
- 文学部心理学開設を申請
- 大学に新校地基本計画委員会を設置

(注)誌面構成の都合により掲載月が少しずれることができます。



の他、「AGU News on web」(「AGUニュース」の記事抜粋および週間ニュース「Weekly AOYAMA」を本学HPに掲載)、「AGUニュースレター」(「Weekly AOYAMA」の記事を簡易印刷)などの広報メディアを利用し、広報活動を展開してまいりました。今回はこれら11年間の新大学広報システムについて振り返ります。



5月

- 連合口一・スクール(法科大学院)合同検討会
- 中国青年学生訪日代表団、本学を訪問
- 関東学生空手道選手権優勝
- 訓点語会第82回研究発表会開催
- 2001年度一般入学試験日程決定
- 硬式野球部優しくも優勝を逃す
- 「Japan.com本格的離陸」Bit Valley Associationセミナー開催
- 産官学が一体となってネット教育を支援
- 2000年度課外教育プログラム実施
- 東都大学野球リーグ戦V3をかけて決戦(青学vs亜細亜大)
- 青山学院管弦楽団第76回定期演奏会
- 清里サマークレッジのご案内
- 東学柔道部10年ぶりに一部昇格
- AMLプロジェクト研究会開催
- 後期青山学院大学公開講座および公開講演会(愛知県名古屋市)のご案内
- 厚木キャンパス公開講座
- 「Let's enjoy sports life!」のご案内
- 青山学院大学後援会評議委員会が開催
- 2000年度大学院学位授与式を開催
- 第36回大木杯争奪全日本大学生英語弁論大会開催
- 「第1回OB・OGによる講演会」開催
- COLLEGE演劇FESTIVAL開催
- 「シーポルト・日本を旅する」NHKラジオ第2回全国放送
- 特別講義「グローバル企業の人材戦略」開催
- 2000年度OB・OGによる講演会開催
- 「どうがくぶ公開」のお知らせ
- 伝承文化研究会平成12年度大会開催
- 「オーストラリアの歴史と民族」NHKラジオ第2回全国放送
- 卓球部関東学生春季リーグ戦試合日程決定
- 春の恵い献血キャンペーン
- 新入生歓迎技術大会開催
- アーバイサー・グループ・データー
- 東北学院大学総合定期戦結果報告
- 演劇研究会による教室公開開催
- 法学院学科改組が認可
- 国際政治経済学部員変更が認可
- ラントリーム・コンサート
- 図書館研究会(AGUL)の表紙イラストを募集

大学後援会長メッセージ



創刊1周年おめでとうございます。在学生の父母からなる大学後援会の一員として、本誌を通じて大学の現況を大興味深く見させて戴いております。特にこの一年は半田新学長の体制のもと、大学が新しい時代を歩み出しました。そしてこれからはキャンパス移転等大きな計画もあり、大学は変革の時を迎えること存じますが、今後も後援会として出来得る限りの支援をさせて戴きたいと思っております。大学のさらなる発展を大いに期待しております。

総務・広報担当副学長メッセージ



新しい広報システムの主翼を担うものとしてAGU Newsが創刊されて1年になりました。ご覧のように教育、研究、部活、就職、校友など学内のあらゆることに関する報告やお知らせを掲載しております。この特集を見てもお分かりのようにいろいろな部署が活発な活動をしていると同時に大学が21世紀に向けて大きな改革を進めていることが分かります。これからもこのように状況を共有できるように一層の誌面の充実を図っていきますが、皆様にもより多くの情報提供のみならず、青山学院の活性化に向けての積極的な参加をお願いいたします。

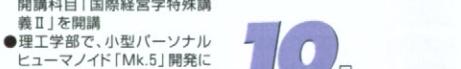
6月

- 図書館外部データベースを公開
- マイクロソフト社「キャンパスアグリーメント」を導入
- あの日に会える! 第7回大学同窓祭開催のお知らせ
- 文献検索システム「JOIS」がホームページ上から利用可能に
- 国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻修士課程(専門大学院)設置認可申請
- 給付費学生および学業奨励賞授与式行われる
- 経済学部講演会開催
- 青山キャンパス公開講座申込受付を開始
- 第1回オルガン演奏会開催
- AMLプロジェクト研究会開催
- 学生生活セミナー「講演会開催」
- 東都大学野球春季リーグ戦開幕
- 理工学部新学科がスタート
- 法学院学科改組を申請
- 国際政治経済学部員変更認可を申請
- 法学部長に山崎敏彦教授、国際政治経済学部長に高森寛教授を選任
- 文学部長、理工学部長再任
- 図書館長に石崎晴巳教授、総合研究所長に渡邊昭夫教授が就任
- 学生部長、国際交流センター所長、外国语ラボラトリーソ長再任
- 世田谷キャンパス公開講座申込受付を開始
- 第18代日本さくらの女王に経営学科3年安田薫さんが選出される
- 文学部心理学開設を申請
- 大学に新校地基本計画委員会を設置



7月

- 大学紹介パンフレットが完成
- 相模原新校地の利用方針を決定
- 学術評議会各種証明書自動発行機の設置
- 推薦・特別入学試験要項の販売開始
- 後期青山学院大学公開講座および公開講演会(愛知県名古屋市)のご案内
- 厚木キャンパス公開講座
- 「Let's enjoy sports life!」のご案内
- 青山学院大学後援会評議委員会が開催
- 2000年度大学院学位授与式を開催
- 第3回OB・OGによる講演会開催
- 青山キャンパス公開講座
- 「バイオルン見学会開催
- AMLプロジェクト研究会開催
- 第16回OB・OGによる講演会開催
- 2000年度大木杯争奪全日本大学生英語弁論大会開催
- 「第2回OB・OGによる講演会」開催
- 「OB・OGによる講演会」開催
- 「シーポルト・日本を旅する」NHKラジオ第2回全国放送
- 特別講義「グローバル企業の人材戦略」開催
- 2000年度OB・OGによる講演会開催
- 「どうがくぶ公開」のお知らせ
- 伝承文化研究会平成12年度大会開催
- 「オーストラリアの歴史と民族」NHKラジオ第2回全国放送
- 卓球部関東学生春季リーグ戦試合日程決定
- 春の恵い献血キャンペーン
- 新入生歓迎技術大会開催
- アーバイサー・グループ・データー
- 東北学院大学総合定期戦結果報告
- 演劇研究会による教室公開開催
- 法学院学科改組が認可
- 国際政治経済学部員変更が認可
- ラントリーム・コンサート
- 図書館研究会(AGUL)の表紙イラストを募集



8月

- 2000年度国際政治経済学部開講科目「国際経営学特殊講義Ⅱ」を開講
- 理工学部で、小型バーソナルヒューマノイド「MK-5」開発に成功
- 山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム
- 青山学院大学公開講演会のお知らせ
- 第17回青山学院大学厚木祭
- 平成12年度東都大学野球秋季リーグ戦
- AGU THE FESTIVAL 2000
- タイに新協定校、2001年度から交換留学開始
- 後期青山学院大学・渋谷区共催公開講座のお知らせ
- 大学生の心理学「臨床心理理学」が受験資格取得認定校に指定される
- ロシア語弁論大会で假屋原智子さん3位入賞
- オランダ・ハーレム国際大会選抜チームに本学野球部から3選手が選抜される
- 第7回青山学院大学同窓祭開催
- ハケ岳体験キャンプ参加者募集と日程の変更
- 青山学院大学2000年度給付奨学生および学業奨励賞授与式
- 日本エヌ・シー・アル(株)ラーニング・センター跡地を購入
- 「AML IIプロジェクト」コンソーシアム、開催日を7月6日に変更
- ハケ岳体験キャンプ参加者募集
- 米大學生野球選手権に本学の左腕、石川雅規君が選出される
- 2001年度大学院入学試験日程決まる
- 第4回OB・OGによる講演会開催



9月

- 新キャンパスの名称を募集
- 相模原市長が本校を訪問
- 国際ビジネス専攻創立10周年記念国際シンポジウムを開催
- 青山祭
- AGU THE FESTIVAL 2000
- タイに新協定校、2001年度から交換留学開始
- 後期青山学院大学・渋谷区共催公開講座のお知らせ
- 学生助成研究団がロシアを訪問
- 「トルコの國に吹く風」NHKラジオ第2回全国放送
- 社会人入試願書受付開始
- 男子バスケットボール部、リーグ優勝
- 本学出身の辻村彰宏氏、学業奨励賞受賞
- 後期チャペルウィーク
- ハケ岳体験キャンプ実施される
- 硬式野球部の石川雅規君投手、シドニーオリビックで登板
- ソフトテニス部・全日本学生大会結果報告
- 卓球部・秋期関東学生卓球リーグ開幕報告
- 国際政治経済学研究科で5年一貫制博士課程を廃止
- 課外教育プログラム「上級教員研修会」実施される
- 学院の壁面特設パネルで「シドニー・オリビック写真展」
- 青山学院大学聖歌隊 第19回定期演奏会のお知らせ
- 青山祭期間中に「AGU受験相談会」を開催
- ESS「第49回チャーチル杯争奪高校生弁論大会」
- ボクシング部赤上洋一君が3部リーグ戦優勝、25年ぶりの快挙!
- 全日本学生バドミントン選手権大会でバドミントン部女子が団体優勝



10月

- 新キャンパスの名称を募集
- 相模原市長が本校を訪問
- 国際ビジネス専攻創立10周年記念国際シンポジウムを開催
- 青山祭
- AGU THE FESTIVAL 2000
- タイに新協定校、2001年度から交換留学開始
- 後期青山学院大学・渋谷区共催公開講座のお知らせ
- 学生助成研究団がロシアを訪問
- 「トルコの國に吹く風」NHKラジオ第2回全国放送
- 社会人入試願書受付開始
- 男子バスケットボール部、リーグ優勝
- 本学出身の辻村彰宏氏、学業奨励賞受賞
- 後期チャペルウィーク
- ハケ岳体験キャンプ実施される
- 硬式野球部の石川雅規君投手、シドニー・オリビックで登板
- ソフトテニス部・全日本学生大会結果報告
- 卓球部・秋期関東学生卓球リーグ開幕報告
- 国際政治経済学研究科で5年一貫制博士課程を廃止
- 課外教育プログラム「上級教員研修会」実施される
- 学院の壁面特設パネルで「シドニー・オリビック写真展」
- 青山学院大学聖歌隊 第19回定期演奏会のお知らせ
- 青山祭期間中に「AGU受験相談会」を開催
- ESS「第49回チャーチル杯争奪高校生弁論大会」
- ボクシング部赤上洋一君が3部リーグ戦優勝、25年ぶりの快挙!
- 全日本学生バドミントン選手権大会でバドミントン部女子が団体優勝



11月

- 新キャンパスの名称を募集
- 相模原市役所青学会が発足
- MBA交流会「MBAネットワーク」の開催
- 経済学部で、小型オールスターの日本レコード大賞を受賞
- 第2回スプリング・カラッジのお知らせ
- 経済学部長に美添泰人教授が講演
- 2001年度一般入学試験出願状況(最終確定数)
- 「ディバンクエス・エイ」による寄附講座を開設
- 経済学部で、学生会議会員が講演
- 第2回学生表彰式を開催
- 学生会議会員が講演
- 第5回「学生広告論文電通賞」(主催=電通/後援=文部省)に青山学院大学から入賞
- 企画セミナー開催
- 国際政治経済学部共催、日本郵船株式会社社長・草刈隆氏講演会のお知らせ
- 韓国の梨花女子大学総長が夫妻来校
- 「第4回就職ガイダンス」開催
- 外国人留学生送別会が行われる
- 2001年度大学院入学試験出願状況
- 2001年度一般入学試験出願状況(専門別確定)



12月

- 就職ガイダンス
- 経済学部で、小型オールスターの日本レコード大賞を受賞
- 第2回スプリング・カラッジのお知らせ
- 経済学部長に美添泰人教授が講演
- 2001年度一般入学試験出願状況(最終確定数)
- 「ディバンクエス・エイ」による寄附講座を開設
- 経済学部で、学生会議会員が講演
- 第2回学生表彰式を開催
- 学生会議会員が講演
- 第5回「学生広告論文電通賞」(主催=電通/後援=文部省)に青山学院大学から入賞
- 企画セミナー開催
- 大学マスクットの名前は「イーゴ」
- 2000年度開催公開講座決定
- 青山学院大学教育ローンがスタート
- 教職免許法改正
- オープンキャンパス日程決定
- 社会人のためのオープンキャンパス日程決定



1月

- 就職ガイダンス
- 経済学部で、小型オールスターの日本レコード大賞を受賞
- 第2回スプリング・カラッジのお知らせ
- 経済学部長に美添泰人教授が講演
- 2001年度一般入学試験出願状況(専門別確定)



2月

- 就職ガイダンス
- 経済学部で、小型オールスターの日本レコード大賞を受賞
- 第2回スプリング・カラッジのお知らせ
- 経済学部長に美添泰人教授が講演
- 2001年度一般入学試験出願状況(専門別確定)



3月

AGU NEWS ON WEB

<http://www.aoyama.ac.jp/agunews>

AGU NEWS Vol.6につきましては、4月上旬にアップロードを予定しています。
※本文掲載のWeekly AOYAMAの記事詳細は、こちらでご覧ください。



Vol. 1

特集
●学長が語る21世紀の青山学院大学
●学部長・卒業生メッセージ
●理工学部・学科改組



Vol. 2

特集
●新潟原市湖畔に新キャンパス

理工学部化学科重里研究室がオランダの国際会議に参加

昨年10、11月に、オランダの古都マーストリヒトで開催された「無機薄膜に関する国際会議(3rdICCG)」に、理工学部化学科重里有三助教授と院生7名の合計8名が参加。ポスター発表6件、口頭発表2件、招待講演1件を企画し、400人を超える聴衆(このうち日本人は数十人)の前で、全員が英語で発表。2名の修士課程の院生は「アモルファスの透明導電膜」「光触媒酸化チタンの合成と物性」に関する口頭の講演を行い、発表後に数多くの質問と論文請求を受けるなど、高い評価を得ることができました。さらに、「光触媒薄膜のヘテロエビタキシャル成長」に関するポスター発表に対しては、見事最優秀ポスター賞を受賞しました。

一行はこの後ドイツに渡り、2つの国立研究所(FEP, HMI)で同様の発表を行い、今後の共同研究や院生派遣計画の立ち上げにも成功しています。



マーストリヒト国際会議場ポスター発表の前で

第3回公共選択学会で経済学部中村ゼミが最優秀賞

昨年11月、関西学院大学で開催された第3回公共選択学会「学生の集い」において、本学経済学部の中村ゼミ(中村まづる助教授)が、最優秀賞を受賞しました。

「学生の集い」は、政策系ゼミの学生交流を深めることを目的に、同学会が発足した学生の研究発表の場。3回目を迎えた今回は「地方主権における自主財源をいかに確保するか」をテーマに、11大学12ゼミがパワーポイントを使用して、研究論文のプレゼンテーションを行いました。中村ゼミは「プロジェクトファイナンスと地方債の商品性向上」についての論文を報告。学会報告の代表をつとめた平野謙君(経済学科3年)は「プレゼンテーションは、チャートやアニメーション機能を多用して強調したい部分を分かりやすく伝える工夫をしました。学会への参加を通じて他大学の学生の興味や研究を知ることができたことも、いい刺激になりました」と語ってくれました。



平野謙 経済学部経済学科3年

報告・お知らせ

新役職員紹介

経済学部長
美添 泰人



熊谷彰矩教授は2000年12月末日をもって任期を満了し、後任には美添泰人教授が選任された。任期は2001年1月1日より2年間。大学院経済学研究科長を兼務。美添泰人教授は1946年生まれ。ハーバード大学大学院修了、博士号(Ph.D.)を授与される。立正大学経済学部教授等を経て、1992年4月より本学経済学部経済学科教授として就任。1995年4月より2年間情報科学研究センター副所長(青山キャンパス)を務めた。統計科学、経済統計などを専門とし、日本統計学会理事長、統計数理研究所運営協議会副会長、文部省学術審議会専門委員、総務省統計審議会委員、内閣府社会経済総合研究所客員主任研究官等を歴任す。

「就任にあたって」

21世紀とともに経済学部長となりましたが、早速、仕事量の多さと責任の重さを感じています。周知のように、わが国の経済を取り巻く環境には厳しいものがあり、環境問題等、経済学の課題の広がりとともに、学生を育てるという経済学部の使命の重要性も失われてはいません。わが学部の当面の課題として、経済学部第二部および大学院の在り方の根本的な検討があげられます。関連して入試制度やカリキュラムの内容についても検討が必要になることが予想されます。カリキュラムに関しては全般的な問題の中でも、情報教育の充実が従来から引き続いて見逃すことのできない課題です。諸先輩方のお力を得て、今後の学部と大学の発展のために働ければうれしく存じます。よろしくお導き下さいよう、誌面を借りてお願い申し上げます。

外国語ラボラトリーコンソーシアム

西澤文昭教授はパリ日本館館長就任による国外出張のため、2000年12月末日をもって外国語ラボラトリーコンソーシアムを辞任し、後任には文学部英米文学科の齊藤 勉教授が就任しました。任期は2002年3月31日まで。

青山学院大学教育ローン

[特徴]

- 一般的の教育ローンより低金利で融資を受けることができます。
- 担保・保証人は不要です。
- 在学期間中の元金返済据置の制度もあります。(在学中は利息のみを支払い、卒業後、元利を併せて返済することができます。)
- 原則として、融資された学費等は本学の学費振込用紙によって直接青山学院に振込まれます。
- 既に学費を納入した場合でも、一定期間内であれば融資を受けることができます。

[利用資格]

本学部生・院生の保護者または学生本人で銀行の定めた資格を有することが必要です。(学生本人に利用を認めているのは富士銀行及びあさひ銀行・三和銀行だけです。)

[必要書類]

- 資金使途確認資料………学費納付書等
- 本人確認資料…………印鑑証明書、住民票、運転免許証、健康保険証の写し等のいずれか一通
- 所得確認資料…………所得証明書、源泉徴収票等のいずれか一通

[注意事項]

- 契約はすべて銀行と融資を受けるものが行います。
- 融資は学費(授業料他)等の教育資金に限ります。
- 銀行によって、融資条件・金利等の契約内容に若干の差がありますので、契約する銀行に照会してください。
- 年間学費相当分の借り入れを希望する場合は、前期分学費納付用紙・後期分学費納付用紙が必要です。この場合は、学生部学生課(世田谷・厚木キャンパス及び第二部は学生課)、大学院事務室へ申し出てください。必要な学費振込用紙を発送いたします。

[提携銀行]

※さくら銀行 渋谷支店ローン担当係 TEL 03-3463-0102

第一勧業銀行 渋谷支店ローン担当係 TEL 03-3462-0315

※住友銀行 渋谷支店ローン担当係 TEL 03-3463-7113

富士銀行 渋谷支店ローン担当係 TEL 03-3400-5151

あさひ銀行 渋谷支店ローン担当係 TEL 03-3498-3211

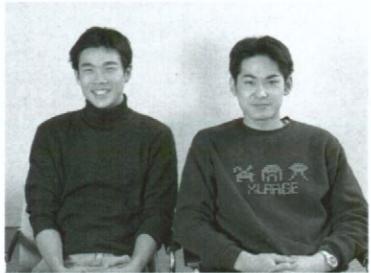
三和銀行 青山支店ローン担当係 TEL 03-3409-3211

横浜銀行 渋谷支店ローン担当係 TEL 03-3463-2151

(融資の申し込みは上記銀行の全支店で受け付けますが、学生本人が融資を受ける場合は三和銀行のみ、青山支店に限ります。)

*印は、2001年4月1日に合併し三井住友銀行になります。

男子バスケットボール部が全国初制覇



創部1929(昭和4)年、2000年に70周年を迎えた本学の男子バスケットボール部は、去る12月3日(日)に行なわれた第52回全日本学生バスケットボール選手権大会(インカレ)

決勝リーグ最終戦において、本大会5連覇をねらう日本体育大学を制し創部以来初の全国制覇を達成。関東学生選手権(2連覇)、関東大学選手権の優勝に続く今回の栄冠により、本学は大学バスケットボール界3冠の座を勝ち取りました。今回のインカレで最優秀選手に輝いたキャプテンの山崎君(写真右)、そして副キャプテンの竹田君(写真左)からの喜びの声をお届けします。

●キャプテン・山崎崇史(経営学部経営学科4年)

「大学日本一は、チームにとって最大の目的でした。昨年3回戦で敗退した悔しさをバネに、基本に立ち返った練習が奏功したのか

もしれません。怪我や病気などのアクシデントもありましたが、そうした逆境に立った時こそ、団結力が高まるこことを切実に感じました。新チームには3冠といわず、4冠・5冠と達成してほしい。学生の皆さんのが応援に来ていただけるチームを目指してもらいたいです」

●副キャプテン・竹田謙(国際政治経済学部国際経営学科4年)

「戦力的に自信はありましたが、やはりインカレの緊張感、プレッシャーは否めません。そんな時に支えになるのはチームメイトです。今回はどのメンバーが欠けても優勝できなかつたと思います。大学最後の年に最高の結果が残せたことは本当に嬉しい。活動環境に恵まれた青学というバックボーンにも感謝しています」



女子バドミントン部が団体V



昨年10月7日(土)、奈良市中央体育館で行われた全日本学生バドミントン選手権大会(インカレ)・団体戦決勝リーグにおいて、本学女子バドミントン部は筑波国際大学を3対1で破り、見事優勝の座に輝きました。昨年、辛くも準優勝に終わったインカレに対する意気込みは個人戦でも発揮され、ダブルスにおいては優勝・準優勝・3位を独占。本学女子バドミントン部の圧倒的な強さを知らしめる結果となりました。

「勝因はやはりチームワークですね。たまたま4年生がない年だったこともあり、部員一人ひとりが責任をもって自主的に練習をしようという雰囲気がチーム内にありました。全員の団結力で優勝を勝ち取ったという達成感があります」(主将・久家あす加文学部教育学科3年)

部員数は現在11名。うち2名が来たる2004年のオリンピック強化選手に選出されていることからも、同部の実力の高さが窺えます。そして2001年春、関東学生リーグ戦(春季)の優勝に向け、新メンバーによる新たなチャレンジが始まろうとしています。



ロイヤルサウンズジャズオーケストラ 一年間の活動を振り返って…

ROYAL SOUNDS JAZZ ORCHESTRAは、ビッグバンド形式で演奏を行うJAZZバンドです。GIL EVANSのナンバーを中心に、各大学のバンドとのジョイントコンサートや大学祭での演奏、ジャズフェスティバルへの参加など多数のイベントに参加。また、昨年夏の「山野BIG BAND JAZZ CONTEST」では、参加大学41校中、総合8位に入賞しました。大学に入っ



第32回定期演奏会

て初めて楽器を持つ人から上級者まで、39名の部員一人ひとりが、一つの目標に向かって技術や知識を高めていく団結力のあるバンドです。(会長・大森真利子 経済学部経済学科3年)

水難現場で人命救助



1月7日(日)、藤沢市で行われた消防出初式で、本学学生3名が藤沢市消防長から感謝状を授与されました。表彰の内容は、昨年7月の水難現場における人命救助に対するもので、被表彰者は以下の通りです。

信田 郁君(文学部日本文学科1年)、松本拓也君(理工学部電気電子工学科1年)、中嶋大輔君(理工学部物理学科1年)。

地球温暖化を考える

熊谷 彰矩
青山学院大学経済学部教授

何が問題か



1937年東京に生まれ、慶應義塾大学経済学部卒業。(株)三和銀行、青山学院女子短期大學助教授を経て、1988年より青山学院大学経済学部教授。環境経済学、経済政策論等担当、排出権市場、マクロ経済政策他の研究。日本経済政策学会(本部幹事・理事)、環境経済・政策学会、廃棄物学会、日本経済学会、日本地域学会、応用地域学会、日本計画行政学会、国際公会経済学会各会員。

“地球は温暖化している。”“その原因は炭酸ガスである。”いまでは多くの人々が、否、殆どの人々がそのように信じています。しかし、それは疑う余地のない事実なのでしょうか。何が問題なのでしょうか。

過去100年間の地球の気温変化はかなり詳しく分かっていますので、まずこれに注目してみましょう。1930年代、当時の英国王立気象学会は地球の気温が史上最高値を記録したことをもって温暖化が始まったと宣言しました。ところが、1940年代から60年代にかけて気温が下がり続けると、今度は科学者たちは一転して地球に氷河期が来ると主張しました。1972年、ブラウン大学で「現在の間氷期はいつ、どのようにして終わるのか」というシンポジウムが開かれましたが、そこで結論は人間が経験した気候の変化よりはるかに大きな地球的な寒冷化が2000~3000年、あるいは数世紀以内に起こることが予想される、というものでした。それから30年ほど経ちましたが、また再び地球の温暖化が主張されています。

もっと前に遡ってみましょう。いまから約6000年ほど前は現在より気温が高く気候最適期と呼ばれて、サハラ砂漠は緑に覆われていました。日本も縄文文化が栄え、当時の北海道の気温は今より2~3℃高かったといわれます。また、中世の温暖期も現在より高温とされており、いまは雪に覆われているグリーンランドにバイキンが入植しています。その後には小氷期といわれる時期が500年ほど続いていました。そして、19世紀末以降、全球平均地上気温は0.3~0.6°C上昇したとされています(IPCC)。このように比較的最近の歴史を見ても、地球はこれまで何回となく寒暖を繰り返してきています。本当に、再び地球温暖化を断言できるのでしょうか。

産業革命以降、炭酸ガスの排出量は急激に増加しているといわれます。そしてこの炭酸ガス等の温室効果によって地球の温暖化が進んでいるとされていますが、その因果関係も決してそれほど単純なものではありません。有名なハワイ島におけるキーリング博士の調査結果をグラフにしてみると、炭酸ガスの増加

の後に気温が上昇しているのではなく、逆に、気温の上昇の後に炭酸ガスが増加していることがはっきりと示されます。これは一般にいわれていることとは正反対のことです。長い地球史の中でも両者は極めて密接な関係を保ちながら変化してきたことはすでによく知られていますが、上の事実からは炭酸ガスの増加が第一義的原因となって気温が上昇するとは考えにくいでしょう。

そこで、炭酸ガスに注目して、化石燃料の使用により人為的に排出される量はどの位かをみてみると、炭素換算で年間63億tと推計されています。炭酸ガスがどのようにして温室効果をもたらすのか、そのメカニズムについては科学的に究明されていますが、問題の炭素が一体どこへ行くのか、その行方についてはまだ明らかではありません。現在の推計では約33億tが大気中に残留するとされていますが、約23億tは森林に吸収されると考えられています。植物が炭酸ガスを摂取して光合成によって成長することは中学生でも知っている事実ですが、近年アラスカやシベリアの針葉樹は成長がよく、急速に太っているということです。次に、地球全体の炭素収支はといいますと、年間の炭素の移動量は大気圏と海洋の間で1000億t、大気圏と生物圏との間で1200億t、合計約2200億tといわれます。これに対して先の化石燃料から排出される炭素は約63億tですから、人為的に排出される炭素の量は巨大な大自然の収支の2~3%に過ぎないということになります。この数字をどう見るべきかは難しいところですが、この程度であるということはよく理解しておくことが必要です。このように地球温暖化については、現在もまだ科学的にはっきりしないことが多く残されているのですが、いま私たちはこの温室効果ガスを2012年までに、1990年比6%(99年比では21%)削減しようとしているのです。

それでは、事実が明らかになるまで待つべきでしょうか。決してそうではありません。これまで私たちが学んだ経済学は専ら人間活動の生産と消費が研究の対象でした。しかし、現在、大量生産、大量消費、大量廃棄という現実を

前にして the other side of coin としての環境に目を向けるを得なくなりました。いまや“環境”を抜きにして経済学を論ずることはできなくなっています。そして環境を流れる資源の大きなフローに着目するとき、「熱力学の法則」が支配する冷厳な事実に注目することが必要となりました。すなわち、取り入れる資源の量と廃棄される廃物の量とは常に等しく(第1法則)、また、資源を使って活動すると必ず廃棄物や廃熱が発生して増大していく(第2法則)という極めて単純な事実です。後者はとくに「エントロピー増大の法則」として有名なもので、環境問題を解く重要なキーワードとなるべきものです。私たちは、資源の利用には量的にも質的にも明らかに限界がある、というこのむしろ常識的な事実をしっかりと認識しておくことが不可欠です。

ところで、世界人口は19世紀末には僅か16億でしたが、20世紀末に遂に61億を突破しました。そして21世紀末にはその数は100億近く(2050年で93億)にも達するといわれています。これは地球温暖化の予測値よりもはるかに確実で、且つ深刻なものです。現在の1.6倍もの人口によって消費されるであろう全世界の資源・エネルギーはどれほどになるでしょうか。人口増に加えて生活水準も向上していますから、その需要量は膨大なものとなるでしょう。だからこそ、炭酸ガスが急増して地球の温暖化が進むのかもしれません、恐らくその前に多くの資源(含む食糧、水、エネルギー等)は枯渇し、地球環境はエントロピーの増大によって想像し難い状況に陥ることになるでしょう。地球上にはいまなお飢えに苦しむ約8億人の人口が現実に存在しています(FAO)。その上にさらに40億近い人口が増大するというのです。いまこのような状況を前にして、地球温暖化の元凶とされる炭酸ガス等の削減という個別的で、しかも依然として多くの不確実性が残されている問題を論ずるよりも、先ず私たちは、すべての資源について徹底した省資源・省エネルギーを進める必要があること、を強く主張すべきではないでしょうか。

2001年度公開講座

●2001年度青山学院大学公開講座は、他にも予定されています。各講座の申込方法等詳細な内容を記載した「GUIDE BOOK 2001」を配布いたします。ご希望の方は、学務部教務課公開講座担当（下表参照）までお問い合わせください。

青山学院大学公開講座〈世田谷キャンパス〉

実験・実習講座「インターネットの旅」

5/12~6/9毎週土曜日

理工学部助教授：石津 昌平 理工学部助教授：稻穂 宏誠

「お手軽コース」

5/12(土) インターネットクルーズとお手軽ページの作り方

5/19(土) 自分らしいページを作ろう

「少しにがめのJavaコース」

5/26(土) Javaカフェ味わいの旅

6/2(土) オリジナルブレンドJavaの作り方

6/9(土) Javaの香り漂うページを作ろう

定 員：「お手軽コース」、「少しにがめのJavaコース」各60名

受講資格：「お手軽コース」中学生以上で2回とも出席できる方（初心者対象）

「少しにがめのJavaコース」パソコンとプログラミングの経験があり、3回

とも出席できる方（経験者対象）

受 講 料：「お手軽コース」2,000円、「少しにがめのJavaコース」3,000円

時 間：13:30~16:00

会 場：青山学院大学 世田谷キャンパス情報実習室

申込期間：4/2(月)~4/21(土)必着

申 込 先：〒157-8572 世田谷区千歳台6-16-1

青山学院大学理工学部庶務課庶務係

TEL 03-5384-1869（ダイヤルイン）

申込方法：往復はがきに「コース名・氏名（フリガナ）・郵便番号・住所・年齢・性別・

職業・電話番号・同伴者がいる場合は、同伴者の氏名・年齢・性別」を明

記し、郵送してください。

なお、両コースの申し込みをすることはできません。

保存版

卒業後の連絡先一覧

	担当事務局	お問い合わせ先	備考
青山学院へのアクセス		03-3409-8111（大代表） http://www.aoyama.ac.jp	8:00~20:00（平日）、土曜は16:00まで。
卒業・成績証明書の受付	学務部教務課 理工学部事務部教務課 第二部事務部教務課	03-3409-8168（直通） 03-3309-6633（直通） 03-3407-9252（直通）	在学時氏名での発行となります。
科目等履修生案内	学務部教務課 理工学部事務部教務課 学務部教職課程課 大学院事務室（総合研究所ビル2F）	03-3409-8168（直通） 03-3309-6633（直通） 03-3409-9634（ダイヤルイン） 03-3409-7831（ダイヤルイン）	人文・社会科学系学部対象 理工学部対象 教職課程対象
単位修得証明書の受付	学務部教職課程課	03-3409-9634（ダイヤルイン）	免許状授与証明書は、教育庁へお問い合わせください。
公開講座案内	学務部教務課（公開講座担当）	03-3409-8111（内線12278）	4月上旬より「GUIDE BOOK 2001」を配布しています。
図書館の利用	図書部運用課閲覧係	03-3409-7858（ダイヤルイン） http://www.agulin.aoyama.ac.jp	図書資料の貸出には、利用カードの申請が必要となります。（学術研究の場合のみ利用できます）
大学院案内	大学院事務室（総合研究所ビル2F）	03-3409-7831（ダイヤルイン）	
キリスト教に関する相談（教会紹介など）	宗教センター（間島記念館1F）	03-3409-6537（ダイヤルイン）	E-mail agcac@cc.aoyama.ac.jp
住所・氏名変更連絡先 「青山学報」の定期講読の受付 「青山学院カード」の申込受付 「青山学院維持協力会」入会受付	青山学院本部校友部（ウェスレーホール1F）	03-3409-8111（内線11302・11303） 03-3409-6645（ダイヤルイン） FAX 03-5485-3616	卒業生の消息がおわかりになる方はお知らせください。
学院の歴史資料展示	資料センター（間島記念館2F）	03-3409-6742（ダイヤルイン） FAX 03-3409-8134	青山学院史料展示を一般公開しています。
寄付の申込受付	総務部庶務課（法人本部1F）	03-3409-6463（ダイヤルイン）	
大学同窓祭	大学同窓祭実行委員会事務局（ウェスレーホール3F）	TEL・FAX共通 03-3409-8990（直通）	今年も9月23日（日）に開催する予定です。実行委員としてお手伝いしてくださる仲間を募集中です。
青山会ネットワークへの加入 (業種別「青山会」問い合わせ)	青山会ネットワーク事務局（担当：若月） (アイビーホール青学会館内)	03-3409-8181（代表） http://www.ki.rim.or.jp/aokainet	「青山学院の発展に寄与」、「会員相互の交流」を目的として設立された企業人の会。業種別「青山会」の組織づくりを推進し、異業種間交流を図っています。
校友会支部連絡先紹介 校友会集会室の利用 校友会総会への出席	社団法人 青山学院校友会本部事務局（アイビーホール青学会館2F）	03-3409-8111（内線11830） 03-3409-9773（ダイヤルイン） FAX 03-3406-0683	E-mail alumni@jm.aoyama.ac.jp
婚礼・会合施設	アイビーホール青学会館（ブライダルサロン）	03-3409-8181（代表） http://www.aogaku-kaikan.co.jp	懇親会・同窓会・クラス会・OB会・外ヶ原・ゼミでの会合などご利用ください。校友には、割引特典があります。

●AGUニュースは、本学ホームページでご覧になれます。<http://www.aoyama.ac.jp/agunews>

首都圏父母懇談会

父母懇談会は、大学後援会事業の一環として、ご父母の皆様からご子女の大学生活等についてのご相談等をうかがい、それを大学運営に反映させることを目的に実施しております。

首都圏在住の3年生のご父母を対象とした2001年度首都圏父母懇談会の日程は、下表のとおりです。対象の方には4月下旬以降に順次詳細をご通知いたします。西日本地区で実施する2001年度地区父母懇談会の日程は次号でお知らせする予定です。

東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県にお住まいの3年生のご父母を対象

対象学部・学年	開催日
文学部／文学部第二部・3年	5/26(土)
国際政治経済学部・3年	6/2(土)
法学部・3年	6/9(土)
経営学部／経営学部第二部・3年	6/16(土)
経済学部／経済学部第二部・3年	6/30(土)
理工学部・3年	10/13(土)



オープンキャンパス・新キャンパス説明会

※開催内容など詳細については、次号以降随時、ご紹介いたします。

2001年度オープンキャンパス

青山キャンパス

(人文・社会科学系学部対象) 7/21(土) 10:00~17:00
(全学部対象) 9/8(土) 10:00~17:00

世田谷キャンパス

(理工学部対象) 7/21(土) 10:00~17:00

社会人のためのオープンキャンパス

青山キャンパス 7/7(土) 14:00~17:30

高校1・2年生のための新キャンパス説明会

11/11(日) 青山キャンパス

2003年4月に開学する相模原キャンパス(仮称)に通学する予定の受験生とそのご父母を対象に、新キャンパス最新情報をお伝えします。



▲西側上空からの新キャンパス



このイメージ図は検討段階のものであり、変更になる場合があります。

▼礼拝堂

シリーズ大学探訪

5

ジョン・F・ガウチャー



1868年ディキンソン大学卒業。名誉神学博士・名誉法学博士。1869年米国メソジスト監督教会ボルティモア年会で按手礼を受け、自らを「世界市民」として超教派的宣教を志し、世界各地の宗教教育と伝道にその生涯を捧げました。キリスト教教育事業に惜しみなく莫大な金額の私財を献じ、6万ドルを超える援助は美術学校をはじめ、青山の土地購入資金、二度にわたる校舎の建築資金、その他教職員の給与の一部にまでおよびました。青山学院は事実上ガウチャー博士の私財をもって設立されたと言っても過言ではありません。

黒人のための初めての大学、モルガン大学の設立者であり、また1889年に設立されたボルティモア女子大学は、彼の死後ガウチャー大学と呼ばれています。



▲ガウチャー・ホール／1887(明治20)年。ガウチャー博士の寄付により完成。1894(明治27)年6月20日、東京大地震により大破壊したガウチャー・ホールは修復使用されましたが、1906(明治39)年、新ガウチャー・ホールの建設により取り壊されました。



▲新ガウチャー・ホール／1906(明治39)年に完成。1923(大正12)年9月1日、関東大震災により倒壊。

▼ガウチャー・ホール記念碑

※ガウチャー・メモリアル・ホール(建設中)については、10~11pをご覧ください。

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人宛に送付しています。

あわせて、本学ホームページには「AGU News on Web」を開設しております。ここでは、「AGUニュース」の内容を抜粋して掲載するとともに、大学のタイムリーなニ

ュースを簡潔な文字情報で週ごとにお知らせする「Weekly AGYAMA」ページも設けておりますのでご覧ください。

更に「Weekly AGYAMA」につきましては、2週分のニュースの中から主要なものを抜粋し、「AGUニュースレター」として印刷。在学生を対象に学内AGUニュース専用パンフレット tandに配布しています。

なお、「AGUニュース」を確実に保証人宛にお届けす

るため、住所が変わった場合は、下記窓口で住所変更手続きをお取りください。

青山キャンパス(昼間部)→学生部厚生課
世田谷、厚木、青山キャンパス(第二部)

→各キャンパス学生課
※今号の発行につきましては、編集の都合上、発行および発送が遅れましたことを深くおわび申上げます。

AGU News on Web
<http://www.aoyama.ac.jp/agunews>